

平成26年7月28日

各 位

会社名 太洋工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 細江美則  
 (JASDAQ・コード: 6663)  
 問合せ先  
 役職・氏名 取締役管理本部長 阪口豊彦  
 兼経営企画部長  
 電 話 073-431-6311

営業外費用の計上、並びに平成26年12月期 第2四半期累計期間、  
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成26年12月期第2四半期連結累計期間において、下記のとおり営業外費用を計上しましたのでお知らせいたします。

また、当社は、本日開催の取締役会において、平成26年1月31日付当社「平成25年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において発表しました平成26年12月期(平成25年12月21日～平成26年12月20日)の業績予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用の内容

連結子会社である株式会社ミラックへの貸付金について、同社の財政状態、経営成績及び今後の見通し等を勘案し、当社個別決算において貸倒引当金繰入額28百万円を営業外費用に計上いたします。

なお、貸倒引当金繰入額は連結上相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

2. 連結業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間(平成25年12月21日～平成26年6月20日)

	売上高	営業損益	経常損益	四半期純損益	1株当たり 四半期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	2,343	△5	△7	△28	△4.83
今回修正 (B)	1,930	△45	△20	△32	△5.51
増減額 (B-A)	△413	△39	△13	△3	—
増減率 (%)	△17.6	—	—	—	—
ご参考：前期第2四半期実績 (平成25年12月期第2四半期)	1,865	△88	△79	△80	△13.74

(2) 通期(平成25年12月21日～平成26年12月20日)

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	4,833	54	50	17	2.94
今回修正 (B)	4,193	1	125	78	13.38
増減額 (B-A)	△639	△52	75	61	—
増減率 (%)	△13.2	△97.3	150.8	355.2	—
ご参考：前期実績 (平成25年12月期)	3,850	△125	△91	△108	△18.62

### 3. 個別業績予想の修正等

#### (1) 第2四半期累計期間（平成25年12月21日～平成26年6月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	四半期純損益	1株当たり 四半期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	2,202	26	28	15	2.66
今回修正 (B)	1,774	△56	△54	△61	△10.57
増減額 (B-A)	△427	△82	△82	△77	—
増減率 (%)	△19.4	—	—	—	—
ご参考：前期第2四半期実績 (平成25年12月期第2四半期)	1,837	△79	△44	△46	△7.95

#### (2) 通期（平成25年12月21日～平成26年12月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	4,558	77	79	62	10.70
今回修正 (B)	4,002	0	107	67	11.51
増減額 (B-A)	△555	△76	27	4	—
増減率 (%)	△12.2	△99.1	34.2	7.6	—
ご参考：前期実績 (平成25年12月期)	3,731	△107	△62	△111	△19.05

### 4. 修正理由

第2四半期累計期間連結業績予想については、主として電子基板の量産受注等による新規顧客獲得が想定どおり進捗しなかったことやスマートフォンの普及によるコンパクトデジタルカメラの市場縮小の影響を大きく受けたことから、売上高は当初予想を下回る見込みであります。損益については、売上高が当初予想を下回ったことに伴う売上総利益の減少等の影響により、営業損益、経常損益及び四半期純損益は当初予想より悪化する見込みであります。

通期連結業績予想については、各事業の第2四半期累計期間の業績の状況を踏まえ、先行きは依然として厳しい状況を想定しております。電子基板事業においては、電子基板の量産受注等の計画を見直し、商社事業及び鏡面研磨機事業においては、厳しい受注環境の継続を想定し、売上高は当初予想を下回る見込みであります。損益については、売上高計画の見直しに伴う売上総利益の減少等の影響により、営業損益は当初予想を下回る見込みであります。経常損益及び当期純損益は売上高計画の見直しに伴う影響はあるものの、保険解約に伴う営業外収益の発生を想定していることから、当初予想を上回る見込みであります。

第2四半期累計期間個別業績予想については、第2四半期累計期間連結業績予想と同様の理由及び貸倒引当金繰入額を営業外費用に計上したことにより、当初予想と比較して売上高は下回り、営業損益、経常損益及び四半期純損益は悪化する見込みであります。

通期個別業績予想については、概ね通期連結業績予想と同様の理由により、当初予想と比較して売上高及び営業損益は下回り、経常損益及び当期純損益は上回る見込みであります。

### 5. 平成26年12月期配当予想

第2四半期末配当金及び期末配当金については、平成26年1月31日付当社「平成25年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」からの変更はありません。

※本業績予想等については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等の様々な要因により、予想数値と大きく異なる可能性があります。

以上